

令和7年度第9小田原市総合計画審議会会議録

- 1 日 時 令和7年12月24日（水）午後1時30分から午後3時00分まで
- 2 場 所 小田原市役所3階 議会全員協議会室
- 3 出席委員 <対面参加> 8名
木村 秀昭、関野 次男、宮本 晋、山本 博文、出石 稔、
有賀 かおる、曾我 清美、益田 麻衣子
<オンライン> 6名
山口 博幸、渡邊 清治、内山 絵美子、奥 真美、
平井 太郎、根岸 亜美
<欠席委員> 5名
久田 由佳、関 幸子、信時 正人、別所 直哉、渡邊 ちい子
- 4 事務局 企画部長、企画部副部長、企画政策課長、行政改革推進担当課長、
企画政策課職員5名

（次 第）

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 第7次小田原市総合企画第1期実行計画行政案の答申協議
 - (2) その他
- 3 閉 会

1 開会

【出石会長】

定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第9回小田原市総合計画審議会を開催いたします。皆様には、お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日は当審議会最後の会議となります。本日の会議も委員の皆様には、会議の円滑な進行につきまして、ご協力をお願いいたします。

なお、久田委員、関委員、信時委員、別所委員、渡邊ちい子委員につきましては、ご都合により本日の会議にご出席いただけない旨ご連絡がございました。本日ご出席の委員は14名となり、小田原市総合計画審議会規則第5条第2項の規定によります2分の1以上の定足数を満たしておりますので、本会議は成立いたします。渡邊清治委員におかれては、15時退席と伺っております。市側の出席者については、お手元の「資料2」市側出席者名簿のとおりです。また、最後の会議になりますので、出席委員に感想を述べていただきたく考えております。

2 議事 (1) 第7次小田原市総合企画第1期実行計画行政案の答申協議

【出石会長】

それでは議題に入って参ります。第7次小田原市総合計画第1期実行計画行政案の答申案協議について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

第7次小田原市総合計画第1期実行計画行政案についての答申として、こちらは三部構成になっています。1枚目は鑑文です。それから答申の本文が続き、それから7ページ以降が皆様からいただいた意見を付帯する個別意見一覧という形でまとめています。

まず答申の本文ですが、冒頭に全体として概ね妥当であるとした上で、行政案の流れに沿って記載しています。構成としては、7ページ以降の一覧表に記載されている第3回から第8回会議でいただいたご意見を、行政案の構成順に並べ替え、会議の中での質問や総意に繋がる、または重複するものにつきましては削除しています。来年1月に実際に答申をいただく予定ですが、正式な答申には赤字で記載している委員名等の欄、総意となった項目は答申本文に記載がありますので削除します。また、いただいたご意見の表現ですが、会議録から転記している状態ですので、例えば文体はですます調とである調が混在している状態です。これはである調に統一します。また、例えば「ファミサポ」といった表現についても正式な表現に修正します。本日は、答申本文について、個別意見の中から答申本文にした方がよい、またその逆の場合についてご意見をいただけたらと思います。

【出石会長】

まず欠席の別所委員からコメントを預かっていますので先に申し上げておきます。

「答申案はこれまでの議論を適切に反映いただいているものであり、答申案本文及び個別意見一覧の内容に異議はございませんので、その旨を審議会にお伝えいただければと存じます。」

それでは一括審議とさせていただきます。答申本文、それから個別意見、これらを含めて、特に個別意見のところは委員ご自身の発言を中心にご確認をいただき、ここは修正して欲しいなどあればご意見を伺いたいと思います。

【有賀委員】

まず表記上のことになりますが、3点確認をお願いします。3ページの施策11の2ポツ目は削除でよろしいかと思います。次に4ページの施策16 地域経済振興の2つ目になりますが、「まずは」が重複しています。最後に6ページの協働プロジェクトの2ポツ目に、「市民や民間企業が取り組んでいる活動が、」が重複しております。

【出石会長】

そういう指摘はしていただいた方がよろしいですし、この場ではなくても最終的に全部確認した上で直していただきたいと思います。4ページの「まずは」は、話し言葉なのでそもそも不要だと思います。

【有賀委員】

次に確認になりますが協働プロジェクトについて、前回の会議で出された資料7の事務局の考えについて、協働プロジェクト全般を説明する際に、SDGsや持続可能といった観点の説明を補足すべきといった意見がありましたが、この意見については審議会として概ね賛成であったと思いますが、記載が見受けられませんでした。その点いかがでしょうか。

【事務局】

行政案の17ページのところで、実行計画の推進における視点があり、こちらの(2) SDGsとの関係性において表現している考えです。また、(3)として協働プロジェクトと施策との関係性の追記を検討します。

【出石会長】

事務局としては協働プロジェクトの箇所ではなく、実行計画の推進における視点で関連性を表現するという説明でした。有賀委員それでよろしいですか。

【有賀委員】

はい。

【出石会長】

私からの形式的な意見ですが、答申本文の 3 行目の「また」は改行してください。また、序論以降の箇条書きの箇所について、1 字下げてください。さらに、「反映されたい」という表現ですが、この表現であると反映しないという選択肢は基本的になくなってしまいます。なお書き以降は個別意見になりますので、反映できない意見もあると思われます。表現は様々ありますが「必要に応じて」或いは「努められたい」などがよろしいかと思います。加えると、委員個別の意見が総意でないことを明確にする必要がありますので工夫をお願いします。

【平井委員】

3 点確認があります。まず 2 ページ目の 1 行目、「多様な主体とのまちづくり」の段落についてです。こちらについて、記憶は定かではありませんが、この書きぶりですが、具体性が欠けるのがまちづくりの部分と読めて、まちづくりというのを協働や共創にしていってはどうかと読めました。と個別意見の方でも述べさせていただきましたが、まちづくりも漠然としています。施策ごとに多様な主体というのをしっかりと「どなたなのか」ということを把握、とらえていた方がいいのではないかと考えました。こちらは多様な主体とまちづくりの双方で具体化を目指す、その方向性を明確にするという風な書き方にしてもいいのではないか、というのが 1 点目です。

2 点目が、4 ページ目の施策 16 地域経済振興です。こちらの 2 ポツ目の 2 行目、外部経済を取り入れながら、地域経済、全地域全体の底上げを目指すとあります。こちらは当日も申し上げましたが、外部経済というのは社会科学一般では、地域以外の経済活動という意味ではありません。何かの経済活動がもたらす、予期しないプラスの効果という意味で使われることを意味しておりまして、こちらは表記を見直していただいた方がよいのではないかと考えます。

【出石会長】

今の 2 点について、事務局の所見をお願いします。

【事務局】

2 点目の 4 ページの外部経済については、「外部の力」という意味なので修正を検討いたします。最初のご指摘につきまして確認になりますが、施策 30 の「多様な主体」の表現についてもう少し具体性や方向性がわかるような表現に全体的に直すべきということでしょうか。

【平井委員】

全体は直さなくて結構ですが、この方針の部分は実行計画全体に関わる場所だと考えています。私としては全体を見なおしていただくというよりは、まちづくりの双方について目指す方向性を明確にされたいという意見です。そのような意味が読み取れる記述にしていたら、実行計画全体として心を砕いていただけるのかなと期待して申し上げました。

【出石会長】

要するに「まちづくり」っていう表現のみが具体性に欠けると捉えられると良くないということです。「多様な主体」においても、もう少しわかりやすく具体的な方向性が見えるように書いて欲しいと指摘ですか。

【平井委員】

はい。そうです。

【事務局】

そうしますと、意見を2つに分けたほうがよろしいと考えます。2ページは全体論なので、施策名そのものの表現がまちづくりで終わるのが他の施策面に比べて具体性に欠ける、まちづくりとはすべてを指すのではという指摘です。ここはそのまま残しておいて、施策30多様な主体が、具体的にどのような主体と実際に協働するのかわかるようにというご指摘として追加するような形ではいかがでしょうか。

【平井委員】

私が意図して思ったのは本当にすべての施策において、協働や連携というのはかかっていると理解しています。個別意見も書かせていただきましたが、しっかり目指す姿で謳っているのに施策に落とし込まれていないといった状況もあります。多様な主体を掲げておけばいいということではなく、全体として、この施策があればこういった方々と一緒にやっていくということについて留意をしていただきたいというのが意図でした。6ページに入ってくると災害時の連携になってしまうので私の意図ではないところです。

【出石会長】

行政案76ページの目指す姿では、多様な主体を明示されています。市民をはじめ、民間事業者や大学、都市部住民などの関係人口、近隣市町や国・県などです。委員意見を満足している状態にも思われますが、中身を充実させるという議論ということでしょうか。

【事務局】

振り返りますと、2ページの一番上ご意見については、多様な主体のまちづくりのこの「まちづくり」という表現をもう少し方向性がみえる例えば「多様な主体との共創」と変えてはどうかというご意見だったかと思います。今平井委員から指摘いただきました、施策30多様な主体とのまちづくりの中で、30施策すべてへの対応を意識した形にしてはどうですかというご意見と、2ページの下3番目、実行計画の推進における視点に要素を追加することが検討可能かと考えます。

【平井委員】

この点は、私の意図をお伝えしたということで、取り扱いには会長、事務局の皆様にご託したいと思います。加えて、5 ページのデジタル化のところですが、2 行目に市民や民間企業も巻き込んだ形とあります。「巻き込む」というのは行政用語として非常によく使われるのですが、よく考えるとあまりよくない表現といえますか、相手の意思はともかくとしてこちらのやっていることに協力させる、或いは関与させるという意味が一般的だと思いますので、市民や民間企業と「ともに」とかですね、もう少し表現を考えていただいてもいいかなと思いました。

【出石会長】

それはその通りですよ。どちらかというと否定的な使い方の方が多いような印象がありますので、そこは直すということをお願いします。また、「多様な主体との協働」や「共創」となっていますが、協働も共創と同じように鍵括弧で抜き出しの方がよいと思います。

【宮本委員】

巻き込むというお話があったので、私も 1 ヶ所 3 ページの施策 1 の地域福祉のところ、ここにも意見として「地域の支えについて、しっかりと地域が巻き込まれ、巻き込んだ形で進める」という同じような表現があります。ただ、地域の支えについて住民と一緒に巻き込んで進めるという言葉は、何となく能動的で自然な感じがするのだけでも、ちょっとこの巻き込まれってというのがやはりちょっと受動的な感じがするので、ここは直して、しっかりと地域を巻き込んだ形で進めていくでもいいような気がします。

【奥委員】

3 ページの施策 11 脱炭素の記述ですが、2 つの文章に分かれています、「一方で、」とつなぐと文章的にニュアンスが違うと思いましたので削除して、一つの文章としてよいのではないかと思います。最初の文章から流れ、詳細施策には適応策が確認できないので、施策内での適応策の明確化について検討されたい、という形が正しいと思います。

次に、これは事務局にも確認したいのですが、詳細施策には行政案では適応策に当たるものは記述されていないのでそれはその通りです。ただ、この施策内での適応策の明確化について検討されたいといった場合には、詳細施策として 1 つ適応策に該当する詳細施策を立てて欲しいという意味ではなく、既にある 3 つの詳細施策の中にどこか適応策に当たるものも入れてくださいということを行っているのか、その意味するところがわかりにくいなと思います。できれば詳細施策の 1 つとして適応策を起こしていただいた方がよいと私は思っているのですが、ここでの表現はそういう意味ではないという理解になりますでしょうか。

【事務局】

現在の詳細施策の中で適応策を明示するイメージであります。

【奥委員】

そういうことであれば、現在の詳細施策の中でどこに適応策が位置付けられるのかイメージが湧かない気がしておりますがいかがでしょうか。

【出石会長】

ご意見としてはわかりますが、審議会としては指摘をする役割になりますので答えを求める場面ではありません。

【奥委員】

こちらから市に意見を答申する際に、既存の詳細施策内での検討を促す意見とするのか、それとも詳細施策を起こすかどうかも含めて検討していただけるような記述の仕方にしておくのかということです。今の記述の仕方だと詳細施策は3つ柱のままでと限定した答申にしろなくても、詳細施策を起こすことも含めてご検討いただけるような書き方にしておいたほうがよいかなと思いました。

【出石会長】

確かに、詳細施策において適応策が確認できないとした上で施策内と記載してしまうと、施策11内全てを指すことになります。「一方で、詳細施策において」まで削除して、「重要であるが適応策が確認できないため、詳細施策内で適応策云々」と記載すれば、我々の意見と事務局の答えと合うと思われます。

【奥委員】

私が申し上げたのは、3つの詳細施策プラス1の詳細施策として、適応策っていうのも1つ柱としてはあり得るのかなと思いました。4つ立てるということもあり得ると思ったのでそこをあわせてご検討いただけるような記述の仕方がいいかなと思います。

【出石会長】

例えば、「本施策において適応策の明確化を検討されたい」みたいな形を1つのベースとして、修文するようにしましょう。我々の方の修文について、今の理解で奥委員他の委員がよろしければ、あとは私と事務局で調整して審議会側の言葉にします。

【奥委員】

わかりました。

【出石会長】

続いて、根岸委員お願いします。

【根岸委員】

施策 16 の地域経済振興のところで 3 点あります。1 点目は、産業横断を促進する動きをしっかりと行っていくという話が何度かあったと思うので、産業横断を促すような動きを地域経済振興全体で図っていくという内容は追加して入れたほうがいいと思いました。2 点目は、1 ポツ目の「既存産業の維持だけでなく」という部分ですが、「新産業創出を目指し、未来志向のビジョンを掲げる必要がある」ということで、概ね、その通りだと思っていますが、デジタル化などを基盤として行っていくこと自体はこれからの未来というより、現状の社会に即した形での対応だと考えます。新しい産業創出という面では、未来志向のビジョンという表現よりは今の社会の流れに即した動き、ビジョンないし指標を掲げる必要があるぐらいまで表現を変えて良いのではないかと思います。3 点目ですが、従来の立地雇用やビジネスイベントでの商談件数など、従来型の企業の動きを指標化していたと思いますが、1 ポツ目と併せて、新しい流れや産業創出に資するようなビジネスマッチング数など、新しいビジネスの動きをしっかりと取り入れたような指標や方向性を入れるべきという話もあったと思うのでこれも追加いただけると嬉しいです。

【出石会長】

今の 3 つの点について、市側の考え方をお示してください。

【事務局】

今ご指摘いただいたものを追加すると例えば 16 ページの 126 番について「AI やデジタル化が避けて通ることができない新しい流れになっているので先を見据えた計画づくり」という表現や、17 ページの 133 番の「従来のように、第 1 次産業、第 2 次産業、第 3 次産業と分けて考えるのではなく、横断的な視点で産業とらえる必要がある」といったご指摘がありますのでこちらを答申に上げるという形でよろしいでしょうか。

【根岸委員】

はい。それでよいと思います。

【出石会長】

今の点は確かに関委員が多く意見を提出されたところで、個人的な意見には話が大きすぎるかなと思ってはいましたし、どこまで反映できるのかなという議論もありました。この点について、今ほど根岸委員が補足されているということですが、他の委員はいかがでしょうか。重要な論点ですので、私は総意として入れて良いのではないかと考えています。

【根岸委員】

追加で補足すると 16 ページの 129 番で産業横断という言葉は使えていないのですが、この文章前段の後半で、「その他農林業や他の事業との繋がりなどを考慮することで好循環を生

み出せる持たせる表現にしていくのがよいのではないか」という意見は、産業横断と同じ意図で発言していますので考慮いただけると幸いです。

【出石会長】

委員の異論がなければ文章の追記を検討することにしましょう。次に、未来志向のビジョンというところにご意見がありました。

【事務局】

関委員からいただいた 126 番と 133 番のご意見、それから根岸委員からいただきました 129 番を追加するような表現をまとめて追加するようかと思います。

【出石会長】

表現の追加ということでよろしいでしょうか。

【根岸委員】

はい。お願いします。ありがとうございます。

【出石会長】

それでは内山委員お願いします。

【内山委員】

計画の発信に関する部分について確認があります。第 6 次総合計画は子ども版が作成され、やさしい表現で発信されていましたが、第 7 次総合計画では予定されていますか。また、できれば将来の小田原を担う子どもたちにこういった計画を発信し理解していただくというのも大事なポイントだと思うので、答申にその旨を盛り込むことができるのか確認をさせていただきます。

【出石会長】

答申に入れることは十分可能だと思います。実際に市が作るかどうかは別として、我々としては今まさにおっしゃられたことで趣旨から、提言的な形で答申として提出可能です。現在の事務局の考えを伺います。

【事務局】

子ども版を作る予定です。本編、概要版、それから子ども版の 3 種類を作成する予定です。

【出石会長】

未来を担う小田原の子どもたちに実行計画の理解を深めてもらうために、子ども版の総合

計画を策定したらどうかというのは良い意見です。そういうことを審議会も答申としてアクションして、それも踏まえていることは良いことと思います。その方向でよろしければ、答申に追記をしたいと思います。

大体出尽くしたでしょうか。いくつかご意見いただきましてありがとうございます。

ただいま出た意見等でそれで修正できる点を修正しブラッシュアップする形で、最終的にはまとめてまいりたいと思います。以上で今日の議事の答申協議は終わらせていただきます。修正については再度この会議を開かずに正副会長一任とさせていただきたいのですがそれではよろしいでしょうか。

【各委員】

異議なし

【出石会長】

ではそのようにさせていただきます。1月6日に市長に正副会長から提出させていただきます。また、この答申ですがもし他の委員の方で希望がありましたら、立ち会っていただければと思います。

それでは続いて(2)のその他につきまして、皆さんからありますか。よろしければ先ほど申しました通り、各委員から一言ずつで結構ですので簡単に感想などをもらいたいと思います。最後副会長をお願いしますので、先にオンライン参加の方からお願いします。

【山口委員】

今回なかなか対面での参加ができず申し訳ありませんでした。今回会議に参加させていただきながら、様々な立場の方々からいろんなご意見を聞かせていただきながら、地域連合として組合の方から代表として出ておりますが、もっとしっかりと勉強させていただきながら地域の中でも生かせればと思います。ありがとうございました。

【渡邊清治委員】

皆様お疲れ様でした。今回の審議会は前回も出させていただいたのですがあまり積極的な作業ができなくて大変申し訳ないと思っています。皆様の本当にいろいろな立場からの意見は私にとっても参考になりました。市全体としてこれからどういう風に進んでいくのかは、審議のスタート時に心の中で不安定なところがあったのですができ上がってみるとなかなか素晴らしいものだと思いました。本当に皆様ありがとうございました。

【内山委員】

ここまで大変な労力をかけて作成された素晴らしい計画になったのではないかなと思います。政策が体系的に整理されて縦軸横軸のわかりやすい政策になっていたのではないかなと思います。特に協働プロジェクトのところをきちっと明記して、部局間の連携ですとか、民

間との連携ですとか、横の軸がすごく明確になり、すごく大切な部分と感じます。いろいろと私も勉強させていただきましてありがとうございます。

【奥委員】

非常に限られた時間の中で、まず事務局におかれましては非常に膨大な資料を細やかに整理いただきました。小田原市の総合計画については、加藤市長の前任時から、ずっとその変遷をある程度見させていただいた。やはり市長が変われば大分総合計画も変わるなというのを実感しております。今回議論させていただいた総合計画は非常に精緻なものになっていると思います。

進行管理も、KPI・KGI、特に KPI がメインかと思いますが、それに基づいて行いますので進捗も見させていただきます。これからよりよい小田原に近づいていくというところを、ぜひ見させていただくのを楽しみにしております。

どうもありがとうございました。

【平井委員】

この間、委員さんまた市役所の皆さん本当に勉強させていただきまして感謝申し上げます。前回も市長が出席された時に申し上げたと思いますが、市の職員は他市と比べても非常に綿密に仕事を積み上げられていらっしゃるって、非常に能力が高いということは重々わかりました。ただ、もう少し市民の方に委ねていくこともあっていいと改めて思います。その点はなかなか難しいとは思いますが、本当の意味での協働というものを実現するのに、この計画を動かしていく際に私の力がお役に立てるところがあれば、一緒にやりながら考えさせていただきたいと思います引き続きよろしくお願いします。ありがとうございました。

【根岸委員】

ここまで精密に緻密に計画を立てられている市の皆さんにすごくりスペクト、尊敬の念を抱きながら参加させていただきました。改めて小田原市らしい計画になっているのかなというふうに思っております。一方で、やはりこの議論し審議を進める中で、測れるもの測れないもののような現実的に見ていけるものベースで作らなくてはならないものもたくさんあるということを、関わりながら難しい点もあると痛感しております。全体を通して、これからの希望的な要素もすごく感じる事ができたので、自分の周りのコミュニティや、市民活動をしている方々に、取組を共有して、なるべく市民全体でこの計画を理解しながら、関わり関わる人が増えていけるような動きができてくるとすごくいいなと思っております。ありがとうございました。

【出石会長】

続いて対面出席者の方をお願いします。

【有賀委員】

お世話になりました。やっと答申までたどり着きましてほっとしております。途中、実行計画の施策の審議がタイトなスケジュールで大変な時期もありましたが、委員担当制を採用していただき少し気が楽になりました。短期間で多くのことを学ばせていただきました。

【曽我委員】

色々学ばせていただきました。会議の前になると一生懸命勉強しましたし、難しい言葉も多くありました。審議が始まってから、すれ違う人に対してこの人は幸せなのかと考えることが多くなりました。会議に参加しながら、こんな風にしたらよい小田原になるのではと考えました。市の方に感謝したいのは、短い時間にしっかり資料を整理していただきました。私も一生懸命読み込むという気持ちが深まるので勉強させていただく意欲が湧きました。ありがとうございました。

【益田委員】

短期間の間に小田原市について学ぶことが多く勉強になりました。ただ計画は計画なので、ここから先が本番だと思います。特に、協働プロジェクトについては、市民と協働していくという行政と市民団体のバランスが難しいプロジェクトです。ここをうまくやっていくことこそが小田原市の特徴として、大きく外に打ち出していける部分だと思います。横串を刺した上に市民と協働すること、とても大変なことだと思いますが、そこをもっともっと力入れて頑張りたいと思います。私も微力ながらどこかで協力できたらいいと思います。ありがとうございました。

【山本委員】

ありがとうございました。大変勉強になりました。よく神は細部に宿ると言いますが、指先一本、髪の毛一本ぐらいまで細かいところを議論したということで、そういう意見も大変勉強になったと思います。分野で言えば様々な課題が改めて出て、各方面方々からの意見を踏まえた様々な対応などがあるなとわかりました。実行計画ですから、時代に沿って未来志向でブランド価値の高い「なるほどな」という面を受け入れなきゃいけないですが、一方で、我々が担当している中小零細企業、地道に働いている人の顔が逆に浮かんできてしまいました。光を当てなくても輝いている人っていうのはどんどん輝きますが、そうではない人も誰1人取り残さず地道にやっていければと改めて思いました。

【宮本委員】

私も行政職員ですが総合計画全体の作成に携わった経験が今までありませんので、そういう意味で非常に勉強になりました。神奈川県では優先的にやっていくことを絞った計画なりつつある中で、やはり今回小田原市を見て思ったのは、基礎自治体であるがゆえに様々な分野に目配せしていかないといけない。それは逆にやむを得ないことで、様々な分野に目を配

らしていかなきゃいけないだということを改めて感じました。また、今回は第 1 期実行計画ですがこれが 2・3 期と続いていきますので、継続してしっかりと伝わっていきだんだんよりよいものになっていくことを期待したいと思います。

【木村委員】

まだ答申の修正はありますがいいものができたと思います。あとは各担当部局において、1 つでも 2 つでも進んでいけるように後ろで発破をかけていきたいと思います。全部をやることはなかなかできないと思うので、できるところからやってくということをお願いしておきます。どうもありがとうございました。

【関野副会長】

長期間にわたりましてありがとうございました。実行計画を実施するためには、行政だけではできないと思います。我々、市民・自治会の方も協力してやっていきたいと、施策 15 番市民活動・地域活動、16 番地域経済振興、23 番防災減災、24 番安心・安全というのは我々が自治会としても今いろいろな形で進めているものです。行政と一緒にやってこれからもやっていきたいというふうに考えています。長期間にわたりまして会長を務めていただきました出石会長本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

【出石会長】

最後に私の方からまず感想を申し上げます。私は加藤市長の前任期中から総合計画に携わっていますが、当時の総合計画は市議会議員が会長を務めていました。守屋前市長に交代してから会長となりましたが、その際も年度で 10 回審議会を開催しました。また加藤市長に戻られておそらくはやらないだろうと思いつつも、再度会長を務めさせていただきまして全 9 回の会議を開催いたしました。そんな中でやはり委員の皆様にお礼を申し上げなきゃいけないのは、それぞれの委員がそれぞれの立場で意見を毎回出していただいて積極的な議論がなされていること、これは本当にすごいことだと思います。またオンラインを使って遠方からでも参加できるのは非常にいいことです。他自治体の総合計画審議会にも関わっていますが大体 2 時間かかりませんが、小田原市は 2 時間で終わらないことがほとんどでした。資料を全部読み込むのも大変でしたので、そのため委員制を採用しましたが、それでも市民委員の皆様や専門家の方々も含めて意見を毎回出していただいたことは大変よかったと思いますし、それを真摯に受けとめて、市の企画のみならず担当部局ができることを取り組んでいくという姿勢は大変素晴らしいことだと思います。我々として本当に誇れる答申になったのではないかと思いますし、この行政案がさらにブラッシュアップされることを期待します。

感想は以上として、2 つコメントしておきます。1 つは副会長から発言がありました。総合計画というのは市職員一人が取り組むものではありませんので、市のアクター全部が関わっていかなければいけません。それこそ絵にかいた餅にならないようにしていくという努力

も、これまた市にお願いするしかありません。先ほどの子ども版のご意見もその一環だと思います。もう 1 つが「策定疲れ」です。策定することが目的ではありません。ですがこれだけの相当な大変な職員の方が苦勞されているというのはそれだけで大変評価はできますが、燃え尽き症候群にならないで欲しいなということと今後次出てくるのは評価、進行管理です。進行管理もまさに進行管理が目的ではないので、進行管理疲れ、評価疲れにならないっていう部分、審議会も評価疲れにならないようにしなければならい。そこはすごく大事だと思っておりますので、この総合計画をしっかりと動かしていくこと、そして、多くの苦勞をしないで進めていって欲しいっていうのが願いであります。

私からは以上とさせていただきます職員からも感想をいただきたいと思います。

【美濃島企画部副部長】

全 9 回に亘っての審議ありがとうございました。私も企画部副部長ということで、何年か前に企画部にいましたが、総合計画に携わるのは初めてでした。事務局の方から言うのも憚られますが、資料が非常に膨大なところ目を通していく中で、役所 34 年目になりますけども本当に知らないところが正直多かったっていうのもありました。改めて資料を見ようとした中で勉強なったところはありますけれども、委員の方々からお話ありました、計画は作って終わりではないので、自分が現場に入ったときに何ができるか、横串刺した中で自分ができること、そして、市民の方々と一緒にやっていける部分これを探りながら進めて参ります。農業で例えれば、種まきという段階でありますので芽が出るか出ないかというのは、その後のケアに関わってきます。時間がかかる事業もあるかもしれませんが、そういった気持ちで自分自身が動くことで、この計画を実のあるものにしていきたいと思います。

【斎藤行政改革推進担当課長】

委員の皆さんから熱心なご意見をいただき勉強させていただきました。先ほど曾我委員のまちゆく市民が幸せなのかと考えるようになった、とのご発言がありました。私はケースワーカーとして福祉分野の業務期間が長かったのですが、自分の中で忘れかけていたようなご発言でとても心に残りました。その気持ちを忘れずに今後の業務にあたりたいと思います。ありがとうございました。

【米山企画政策課企画政策係主任】

9 回に亘る審議本当にありがとうございました。私は前回の第 6 次計画の策定時から携わっておりますが、今回も我々が作る文章を皆様にご確認をいただき、言葉遣い、言い回しや伝わりづらさってところをご指摘いただきました。常日頃意識しながらやらなければいけないなというところも、今回改めてあるものだなと思えるようなご意見をいただきました。計画は作って終わりではないとのご意見については我々も一致しているところです。来年度以降の実際の計画推進、それぞれの所管部局が実施する部分が多くなるかと思いますが、その辺り我々もチェックしつつ、皆様と一緒にまちづくりをしていけたらなと思いま

すので、引き続きよろしくお願いいたします。

【金本企画政策課企画政策係主査】

主に会議資料と議事録の作成担当しておりました。第3回目の会議で会議録2日以内にお示ししますと申しておきながら、とても大変だったというのが正直な感想です。ただ、議事録作成支援システムや生成AIを使いながら、どうやって作業効率化を行っていくか、今回の会議でかなり学びました。皆様のご意見を庁内に照会する際にも庁内負担の軽減なども意識しながら全庁的な作業を意識した半年でした。大変勉強になりました。実行が重要だということを認識しておりますので策定から実行に向けてこれから頑張りたいと思います。

【小澤企画政策課企画政策係長】

皆さんありがとうございました。私も第6次から第7次と2回計画を作らせていただきまして、こうして皆さんといろいろお話をさせていただくことは大変勉強になりました。

私は、仕事をする信条として、自分ができることはできる限りやるというふうに思いながら仕事をするようにしたいと思って、今まで20年ぐらいやってきています。今回この資料の準備もそうですし、皆さんからいただいた意見をどういったら生かせるかっていうのを常に考えながらやっているつもりです。今後はいただきましたご意見をまちづくりにどう生かすのかというところが、本当のテーマだと思っています。今日皆さんの話を聞いて本当に何かが始まるかなといった気持ちになりました。

ただいただいたご意見をこの行政案になじませるっていうところは実は結構大変で、それを乗り越えた上で、職員に理解してもらい、走り出す必要がありますけれども、全力でやっていきたいと思いますので、引き続きご協力よろしくお願いいたします。

【杉本企画政策課副課長】

企画政策課の杉本と申します。私はこの4月に異動してきました。昨年度までは福祉分野におりましたので、現場目線での会議に参加させていただいておりましたが、1つの視点からではなく市として全体をみる大切さや色んな見方や視点があることに気づかされました。今までの自分の経験を強みにしながら、頭を柔らかくして様々な視点から物事をみれるようにこれから頑張ってまいりたいと思います。ありがとうございました。

【井上企画政策課企画政策係主査】

企画政策課の井上と申します。本日までどうもありがとうございます。様々な分野の専門や立場の方にご参加いただき、行政案の肉付けや修正が終わり、答申案ができあがって今は安堵と感謝の気持ちです。私は企画政策課4年目、着任した頃は2022年の第6次総合計画がスタートした年でした。計画があってそれが走り出していて、その進捗を管理していく作業を行ってききましたが、今回は計画を作るところからこういう形で計画というのが作られて、また進捗していくというサイクルが経験できたこと、別の部署に異動した際にもこの経験を

忘れず、また皆様とともに事業を進めてまいりたいと思います。

【小鷹企画政策課長】

委員の皆様、9 回に亘る会議において本当に資料を読み込んでくださりましてありがとうございました。本来、こちらのチェックの段階で気づかなくてはならないこともご指摘いただき申し訳なく、またありがたく思っております。私は初めて総合計画の策定に携わりました。企画政策課のスタンスとして、各所管がどうしても自分の分野に収まりがちなところを広げよう広げようということで、協働プロジェクトの作り込みもそうですが、そういった掛け声をかけてきました。しかし、いざこの審議会に立ちますとやはり私も認識が狭かったということを改めて実感しました。平井委員からも、もっと市民と分け合おうとご意見いただきましたし、益田委員からは、市民は計画そのものよりも結果であり、市が何の事業を行うのか、どういう結果が生まれるのかが大事、ということも改めてご指摘いただきはったところでした。来年度以降、進捗管理が重要です。特にご指摘いただいた協働プロジェクトについては、所管の狭い枠に止めずに広がりを持たせていけるのか、市民や企業の皆様と繋がりを広げていけるのかを進めてまいります。今後評価をいただくようになりますけれども、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【小澤企画部長】

最後に私の方から挨拶と感想を交えて話したいと思います。まず7月1日から第1回会議が始まりまして9回もの間、相当タイトなスケジュールの中で、委員皆様にご協力いただいたからこそ、今日を迎えることができたのだと思います。この後、答申に向かいますけれども、それは正副会長と我々の方で調整させていただきます。まずもって、会議の最大の功労者である会長には、進行面で本当にご尽力いただきました。数々の皆様の相当な思を時間内にまとめ上げるというのは相当なことではないかと私は思います。

今回の総合計画は重点プロジェクトがありません。代わりにはなりませんが、協働プロジェクトという形で皆様にご提示をさせていただきました。この協働プロジェクトっていう形に収まるまで相当時間がかかりまして、夏過ぎまで実際かかっています。皆様にお示ししたときには、まだ立案したて状態でしたが、皆様からもいろんな意見もいただけたので、形が少しずつ見えてきたかなと思います。この辺りについても本当に感謝をしております。

来年度に向けては実施や評価を着実に進めていきます。事業によってはレベル感があるかもしれませんが、ほぼすべての事業には着手していくつもりで進めます。今ほど、企画政策課の職員が一人ずつ話しましたが、大分大変な思いをしながら進めたいと思います。この業務だけではないので、そういった意味では大変だったかなと思います。そういった中でのこの総合計画っていうところで、職員にももちろん感謝していますし皆様の思いが形になったことに本当にありがたい思いでいます。

本来は市長がこの場においてご挨拶すべきところを私の方から挨拶させていただきましたが、来年度以降、また皆様にも評価という形で関わっていただきますので、今後ともよろし

くお願いいたします。本当にありがとうございました。

2 議事 (2) その他

【出石会長】

すべて議題が終わりましたので、事務局から何かありますか。

【事務局】

事務局よりご報告です。第 1 期実行計画の策定に当たって、当市の将来都市像にちなみ、「えがおがあふれる わたしのふるさと小田原」をテーマに市内在住在学の小・中学生を対象に絵画を募集したところ、合計 283 点の応募があり、その中から 6 点の優秀作品を選出し、明日表彰式を行います。なお、受賞作品を含めた全応募作品を、明日 12 月 25 日木曜日午後 5 時から令和 8 年 1 月 23 日金曜日の期間で、前期と後期 2 週間ずつに分けて、小田原地下街・ハルネ小田原・ハルネギャラリーにおいて展示いたします。前期は令和 8 年 1 月 9 日金曜日正午までは、小学校 1・2・3 年生・中学生の作品の計 162 点を展示し、後期は（1 月 23 日金曜日正午までは、小学校 4・5・6 年生の作品 121 点を展示しますので、ぜひ足を運んでご覧いただけたらと存じます。また、受賞作品を含めた全応募作品は、ハルネギャラリーでの展示終了後、市ホームページにも掲載いたしますので、よろしければ後日こちらもお覧ください。

3 閉会

【出石会長】

それでは以上をもちまして、本年度最後の審議会を終了したいと思います。